

学修成績から見た教科間における関連性の検討 —鍼灸学部への解析—

渡邊 康晴¹⁾，竹田 太郎²⁾，山崎 翼³⁾

¹⁾ 医療情報学，²⁾ 臨床鍼灸学講座，³⁾ 保健・老年鍼灸学講座

医学系科目を履修する際，特定の科目間に関連性があることが体験的に知られている．一方，客観的なデータとして科目の関連性を示した報告は乏しい．そこで過去 5 年間の卒業生を対象とし，履修成績を基にした科目間の関連性について検討した．

解析対象は編入学を除く過去 5 年間の卒業生 243 名とした．本学の履修カリキュラムからははり師きゅう師国家試験に関連する科目を抽出した．次に GPA の算出法に基づき，卒業時成績から国家試験に対応する科目カテゴリー別に Grading Point を算出した．各学年間で履修カリキュラムが異なるため，Grading Point を偏差値に換算した．科目カテゴリーは国家試験に対応する 13 科目のうち，カリキュラム上の区分が困難であった「はり理論」と「きゅう理論」を統合して 12 カテゴリーとし，科目間の相関を求めた．

各科目間における成績相関が強く見られ，0.7 以上の強い相関係数を示したのは，全 78 通りの組合せの中で 19 通りであった．相関が最も高かったのは解剖学と生理学の間であった($r = 0.803$)．0.7 以上の相関が 4 科目以上で見られたのは，公衆衛生学，解剖学，生理学，臨床各論，東洋医学概論，東洋医学臨床論，はり理論きゅう理論であった．負の相関を示した項目は皆無であった．

学修成績から見た教科間における関連性の検討 —保健医療学部への解析—

渡邊 康晴¹⁾，神内 伸晃²⁾，山崎 翼³⁾

¹⁾ 医療情報学，²⁾ 臨床柔道整復学，³⁾ 保健・老年鍼灸学

柔道整復師国家試験では，解剖学，生理学，柔道整復学理論が重要な科目とされる．単に出題数が多いだけでなく，他の科目に波及する学習効果が大きいと認識されている．しかし，これらを立証する客観的なデータは乏しい．そこで卒業生を対象とし，履修成績を基にした科目間の関連性について検討した．

解析対象は編入学を除く過去 5 年間の卒業生 154 名とした．本学の履修カリキュラムから柔道整復師国家試験に関連する科目を抽出した．GPA の算出法に基づき，卒業時成績から国家試験に対応する 11 の科目別に Grading Point を算出した．その後，Grading Point を偏差値に換算して，科目間の相関分析を行った．

相関が最も高かったのは解剖学と生理学の間であった($r = 0.802$)．解剖学，生理学，柔道整復学理論の 3 科目間はそれぞれ 0.7 以上の強い相関を示し，互いの科目が強く関連し合っていた．一般臨床医学と柔道整復学理論は全ての科目間で 0.4 以上の相関を示した．負の相関を示した項目はなかった．

見かけの相関の影響を排除するため，解剖学，生理学，柔道整復学理論の 3 科目を除外因子とした偏相関分析を行った．すると解剖と生理，解剖と柔理の間に 0.4 以上の相関が見られたが，生理と柔理の相関は 0.3 まで低下した．